

令和4年

駒ヶ根市教育委員会 第11回定例会

会 議 録

駒ヶ根市教育委員会

## 令和4年駒ヶ根市教育委員会 第11回定例会議事日程

告示年月日 令和4年10月17日（月曜日）

開催年月日 令和4年10月25日（火曜日）

開催場所 駒ヶ根市役所 保健センター2階 大会議室

開会時刻 午後1時58分

閉会時刻 午後2時53分

- 1 開会
- 2 教育長報告
- 3 事業報告及び事業計画  
・次回定例教育委員会 11月29日（火）14時～南庁舎2階 大会議室
- 4 審議案件  
なし
- 5 協議事項  
なし
- 6 報告事項
  - (1) 上半期保育料徴収状況について
  - (2) 上半期学校給食費収納状況について
  - (3) 行事共催等承認申請の専決処分について
- 7 その他
  - (1) 令和4年度上伊那郡社会教育関係者懇談会について
- 8 閉会

## 出席者

教 育 長	本 多 俊 夫
教育長職務代理者	福 澤 惣 一
委 員	唐 澤 浩
委 員	木 下 健 一
委 員	山 田 恵 美

## 欠席者

なし

## 委員以外で会議に出席した者

教育次長	北 澤 英 二
子ども課長	赤 羽 知 道
学校教育係長	水 野 毅
幼児教育係長	大 野 秀 悟
給食センター所長	吉 澤 美和子
文化係長	下 澤 猛
教育総務係長	中 嶋 英 貴
教育総務係	竹 田 正 樹

傍聴： 1人（うち報道機関：長野日報社1人）

## 会議のてんまつ

### 議事日程記載のとおり

午後1時58分 開会

#### 1 開会

○本多教育長 ちょっと早いですが、始めたいと思います。

改めまして、こんにちは。(一同「こんにちは」)

ただいまから令和4年駒ヶ根市教育委員会第11回定例会を始めたいと思います。

#### 2 教育長報告

○本多教育長 先日は、教育課程研究協議会のほうに参加いただきありがとうございました。

また、長野県市町村教育委員会のほうも大変にありがとうございました。

立て続けで、この1か月の間に4回ほど顔をあわしているなというような感じがいたします。この時期は本当に参観等も多くて大変だったかと思えます。ありがとうございました。

先ほどもちょっと時間があつたので話していたのですが、本当に寒くなりました。それでも例年よりはちょっと山の白くなるのが遅いというような状況であります。

また、ここへ来て学校関係、保育園関係ではちょっとコロナが再燃してきました。オミクロンのほうの関係や第8波だとか、今年こそインフルエンザがはやるとか、あまりいい話は聞きませんけれども、十分に気をつけていただきたいなあというふうに思います。

1ページのほうを見ていただきます。ちょっと面白いことを載せました。

「犬小屋の 奥まで日差す 小春かな」

この時期は日も短くなりますけれども、太陽の高度もやや下がって、ふだんは薄暗いような部屋の奥のほうまで日が差し込むというのがこの時期の特徴であります。いよいよ冬なのだなあというふうに思います。小春日和というにはちょっと早い言い方かもしれませんが、そんなような感じがいたします。

こんな時期に各学校ではテストがあつたりして、いろいろと年末に向けての気ぜわしい日が続くのですけれども、この時期の子どもたちの心はどんな状況なのかなあなんていうことを思うところでございます。

「先達の教え1」のところに世阿弥の「離見の見」という言葉を載せました。

こういう忙しいときほどこういう心境に立たなければいけないなあということで、自分自身の自戒でございます。

「自分の姿を離れたところから客観的に見て、自分の思い込みに囚われず、」ということです。焦ったり気ぜわしくなったりしてくると教員はよくこういう目に陥ります。

また、2つ目の丸にもありますけれども、学習のまとめ等をしたりするときに「他人との比較や競争ありきの目標ではなく、自分がどうありたいかという目的や使命感を持つ事が大事。」ということですが、ここを意外と落としがちで、遠くを見ているつもりが、つい足元を見て誰々ちゃんと比べてどうだとかと、こうやってしまいがちです。

ただ、3つ目の丸の4行目ですけれども、駒ヶ根市では内から育つということをおっしゃるわけですが、「絶えず新たな目標を自分で決めることができる、」最終的にはそうありたいものだと

ということが言われております。ここが今日の一番言いたいことであります。やっぱりこういうふうにして日々を新たにしていけないといけないなあということを思って、そこへ載せさせていただきました。

「先達の教え2」のドラッカーの教えは、それぞれの人間が持っている指紋のように、全ての人はみんな一人一人固有の強みを持っているぞと、自分が持っているものを使って成果を上げることがとても大事なのだぞということが書かれております。

ドラッカーは有名な人ですけれども、経済の関係の人たちはもう当たり前のようにやっている。これは教育の世界でも我々一般の人間なんかに同じことが言えるのではないかなあというふうに思ってそこに載せさせていただきました。

よく「やる気があるのか」なんて言ったりします。

下から2つ目の丸のところにゴシックで「情熱と独創と実行」とありますが、仕事というのはこの3つがそろわなきゃ駄目だということです。

情熱のことをよくパッションと言いますが、先生方の中にもパッションの塊のような先生がいるのだけれども、なかなか実行が伴わない、情熱はあるのだけれども実行が伴わないというのではなくて、やっぱりこの3つが大事というようなことも書かれてございます。

次にページへ行っていただきまして、そんな中でも個性を生かすということ、指紋のようなものです。指紋もそうですが、個性は個の持ち物であります。それをどれだけ意識して生活や学習に生かせるかということがポイントかなと、そんなことを思います。

次に「はっとした言葉」ということでコーナーを設けております。

サントリーの亡くなった社長が日頃から言っていたのは、社員がこんなことをやってみたいと言ったら「やってみなはれ」と、この言葉を、私は大学の頃か、もうちょっと若かった頃に聞きました。「やってみなはれ」というのはいいなあ、すばらしい会社のDNAかなあというふうに思います。

そのところに「空振りを恐れて、安全パイのヒットを打っている、失敗しないかもしれないが、絶対にホームランは打てない。」ということを書いております。

この一歩あるいは半歩を踏み出せるかどうかということは、やっぱり企業人であれ、学校であれ同じで、一人一人が目指すところも同じかなというふうに思います。

ハートマークのところに長嶋茂雄のことが書いてありますけれども、彼のデビューは、今の谷なんていうものじゃなくて、たしかプロ初打席は4連続三振だったというように記憶していますが、そのときのキャッチャーがこれはすごいバッターになるぞということを言っていたということ思い出しました。

やっぱり未完の大器は光る何かを備えているのだなあ、果たしてそれをどんなきっかけで見抜けるかどうかということかなというふうに思いますけれども、いずれにしても「やってみなはれ」精神がないとそういう光るものも見つけれないのかなあと思いました。

今日は審議案件も協議事項もないので、ちょっとゆっくりめで申し訳ありませんが、続けます。

「なるほど」のところまで。

ネイマールの実験というのが本に書いてありました。ネイマールがほかの選手に比べてどうしてすごいのかということが3つほどありました。ネイマールというのは皆さん御存じのようにサッカーの選手であります。

1つは、プレーのパターンをほかの選手よりもたくさん覚えているのだそうです。だから、学校でいうと、これは大事だからなということをしきっと頭の中に入れられるということです。

2つ目は、覚えているパターンのうちどれを使えば最も適切か判断する能力がある。ああ、ここが違うなと思います。

3つ目は、判断のスピードがあるということです。

この2番目がとても大事ななと思います。何でもかんでも、やっぱり最初は基礎学習で練習ということが大事で、その上に独創的なプレーだとかいうのがどんどん出てくるのですけれども、2番の覚えているパターンのうちのどれを使えば最も適切かという判断能力があるのだそうです。

やっぱりそれを常に意識して高めていくことが大事になっていきます。日常生活の中でも葉っぱ1枚の努力が大事だということですけれども、今朝も歩いてくるときに小学校3年生ぐらいの子がグラウンドでキャッキョッキョッキョキ言いながらサッカーをやっているのですけれども、パターンをどれだけ覚えているかなと、判断力がどれだけあるかなというふうなところもこれからは見ていこうかなというふうに思っております。

この間は、1人がタイヤのところにて、肩が揺れていたの何かおかしいなと思って見たら、泣いていました。ほかの子たちは真ん中のほうでサッカーをしているのに、1人でみんながサッカーをしている姿を見ながらクックツと泣いておりました。けんかをしながら仲間の様子も見てというような育ちがそこにはありました。朝っぱらだったのでちょっと気になりましたけれども、真ん中あたりから「おーい、こっちにこいよ」なんていう声もちょっとは出ていました。面白い人生の一場面を見ることができました。

最後でございしますが、「ちょっと立ち止まって」のところですよ。

今は5年生の単元でお米作りのことをやったりするのですけれども、地域の方々が善意で、いい米を作らせてやりたいものだから、どうしても自分たちの経験やなんかを教えてくれるわけです。

ある学校ではもうパターンが決まっております、さあ今年はどうな米作りをしようかなと思っていると、しょっぱなから「いいから、俺の言うことを聞かないといい米は作れねえぞ」と言われて、「おめえたちはちゃんと草を取れ」とか「1日に1回は見に来いよ。何をやっているんだ、ばかやろうめ」と怒られて、やっこさっこ米を作っているという話も聞きました。

それが毎年だそうで、5年生になるのは嫌だなあとか、5年の担任にはなりたくないという教員もいるぐらいのところは市内の学校にあるようです。それじゃ困るぞと言っているのですが、あまり変わっていないようであります。

学校でしか失敗はできませんので、押しつけじゃない米作りといいますか、「ああ、おめえたちはそういうふうにしたかもしれないけれども、おいさんが小さい頃はなあ、こういうふうで」というように比較しながら米作りにいそしめるとか、ちょっと世間の米作りからは遅れたかもしれないけれども、それでも米ができるとか、いろんなことをやっていって、いやあ本当に昔の人は苦しんで苦しんでこうやってやったというようなことを話して、最初から抑えつけるように言うのではなくて、今年の衆はどんな歩みをするのかなということを見ながらやっていただくのが理想かと思えます。

しかし、やっぱり善意のほうに立ってしまって、子どもたちの中には嫌でもやらなくちゃならない労働だと思っているきらいがありますので、それでは困るなあというふうになっている

ところであります。

ただ、私の中では、3世代交流ということが1つの課題としてありますので、お年寄りの人やそういう経験を積んだ方々には、ぜひ学校の行事とか学習に参画してもらいたいなあというふうに思っています。

だから、その使い方という失礼ですけども、利用させていただくやり方をもうちょっと工夫していかなきゃいけないなと思うところがございます。ひいてはそれが内から育つにつながりますので、それを課題として本気で取り組みたいなあというところがございます。

長くなって申し訳ありませんでした。

本日もよろしく申し上げます。

### 3 事業報告及び事業計画

○本多教育長 それでは事業報告及び事業計画のほうをお願いいたします。

○北澤教育次長 事業報告及び事業計画資料により説明

○本多教育長 よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○本多教育長 よろしくをお願いいたします。

### 4 審議案件

なし

### 5 協議事項

なし

### 6 報告事項

#### (1) 上半期保育料徴収状況について

○本多教育長 先ほど申しましたけれども、審議案件も協議事項もございませんので、報告事項に移ります。

上半期保育料徴収状況について、申し上げます。

○大野幼児教育係長 5ページを御覧ください。

半年が過ぎましたので、現段階での保育料の徴収実績ということで御報告させていただきます。

まず表の見方でございますが、上段につきましては保育園の部分、中段につきましては幼稚園の部分、一番下につきましては幼稚園と保育園の合計になります。

御確認いただきたいのは、調定額につきましては「累計(B)」というところ、収入額等につきましては「累計収入額(C)」のところ、徴収率につきましては「現年分(C/B %)」というところで御確認いただければと思います。

前年度との比較につきましては徴収率の「前年同期(%)」というところに載っています。こちらが昨年度との現段階での比較ということになります。

現段階でございますけれども、幼稚園と保育園の合計で見ますと、現年分につきましては89.94%ということで、前年同期と比較しまして若干徴収率が悪いという状況になっております。

現在の未納の部分につきましては、主には保護者の払い忘れとか口座の残高不足によるものでございますので、こちらにつきましては園と協力しながら保護者に声をかけ、年度末に向けて徴収率を上げていく取組をしていきたいと思っております。

前年度最終につきましては96.10%でございますので、何とかそれに近づけて、またそれを超えるような徴収率に持っていきたいと考えております。

以上でございます。

○本多教育長 保育料の徴収について御意見、御質問等ございましたらお願いします。――よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

## (2) 上半期学校給食費収納状況について

○本多教育長 続きまして上半期学校給食費収納状況について、お願いします。

○吉澤給食センター所長 お願いします。

資料の6ページをお願いします。

学校給食費の収納状況ということで、8月分まで、9月末時点での状況を御報告させていただきます。

資料のほうですが、一番上の固まりの部分が赤穂地区の赤穂学校給食委員会になります。

それから、真ん中の部分が竜東地区、竜東学校給食委員会の状況になります。

そして、一番下のところが赤穂と竜東を合わせた状況になります。

まず赤穂学校給食委員会のところですが、こちらも3段に分かれているのですが、一番上が現年度分、真ん中が過年度分、一番下が過年度と現年度の合計という表になっています。

現年度分の令和4年度ですけれども、右から3番目のところに「滞納額」とありますけれども、8万2,731円が未納額となっています。

滞納者数については13名ということで、このうち就学援助の認定者が6名おります。この6名の方については、年度初めの6月分はまだ就学援助の認定のほうがありませんので通常の皆さんと同じように収めていただくのですけれども、その部分が残高不足等で引き落としができなかったということで、保護者に負担していただく手数料分――これは銀行によって違うのですが、55円とか33円というような手数料も含めた人数が13名という形になっております。

それから過年度分ですけれども、調定額が421万円余ですけれども、9月末までの時点で13万円余の収入がありました。

滞納者数につきましては18名という状況でございます。このうち2名の方は、まだ学校のほうに子どもさんが在籍しているという方になってきます。

それから真ん中の段の竜東学校給食委員会ですけれども、現年度分につきましては滞納額が66円ということで、これは先ほど申しました就学援助の認定者ですけれども、口座振替の手数料分が未納になっているという状況です。

それから過年度分ですけれども、調定額が21万6,000円余でございます。1名の方ですけれども、今は分納で納めていただいているのですけれども、9月末までにはまだ収納がされていないというような状況でございます。

一番下のところ、赤穂と竜東の合計のところですが、滞納額が全体で438万7,000円余



ということで、滞納者数が31名ほどになっております。

過年度分のところにつきましては、債権管理室とも相談をしながら収納していただけるように働きかけをしているところですので、引き続きそのところは丁寧に行っていきたいというふうに思っております。

以上になります。

○本多教育長 給食費収納状況ですが、いかがでしょうか。――よろしいでしょうか、  
〔「はい」と呼ぶ者あり〕

### (3) 行事共催等承認申請の専決処分について

○本多教育長 それでは次に行きます。

行事共催等承認申請の専決処分について、お願いします。

○竹田教育総務係 7ページを御覧ください。

今回は後援申請が10件ありました。

このうち新規のものが2つです。

4-075、これは、「光前寺秋まつり」と書いてあるのですが、ちょっと光前寺の秋まつりとはあまり関係がなさそうです。

今年初めての不承認となっております。

市のほうも商工観光課のほうも後援はしないということで、それに合わせて不承認という形です。

理由なのですけれども、説明のところには「紅葉ライトアップの事前PR」というふうを書いてあったのですが、特にタイアップ等はしていないということが分かりました。

それから、単独企業のイベントということで、営利性がないという判断基準のところ引っかかるだろうと判断いたしました。

ちなみに、宮田村や飯島町にもこの団体さんのほうで申請を出していたようですが、市町村によって判断が分かれたようです。聞いてみますと、やっぱり以前の統一教会の関係の一件があって、審査はよりきっちりしましょうということで判断が分かれたようです。

代表をなさっている村田さんのほうにはこの件につきまして細かく説明しましたところ、理解をいただいて、今後イベントを起こす際にはいろんな関係の方と連携して工夫していきたいというような話でした。

次に、4-081、イ〜ナJr. ソフトボールですが、伊那市が国スポ対応として中学生のチームを立ち上げたいということで、その募集を駒ヶ根市へ広げたいということから体験会を開くということです。

それから、今回はコロナが収まってきたということで、4-073、4-076、4-079、4-082は、久しぶりに本番をやるということで、復活のイベントだそうです。

以上、10件の後援申請があったわけですが、承認9件、不承認1件ということでした。

説明は以上です。

○本多教育長 後援申請の1件が不承認ということで、めったにないことですが、問題になった一件もあったということでした。

あれですかね、4-081と同じように駒ヶ根市もホッケーで市外へ触手を伸ばしていくのです

かね。

○竹田教育総務係 山田委員にちょっと聞いてみて……（笑声）

この間のときにちょっと話をしたのですが、これからホッケーがどうなるか……

○山田委員 そうですね。ゴールデンエイジといわれる年長から小学生の時期が大切です。国民スポーツ大会の少年男女で出場できる高校3年生が今の小学校6年生になります。そういうこともあって、スポーツ少年団のところでは、今は駒ヶ根と、ちょっとイレギュラー的に宮田の子1人が入っているのですけれども、そういったものを広げているところからでも入れるようにしたらいいのではないかというのは、今、協会のほうでも話を進めているところです。

以上です。

○本多教育長 御苦労さまです。

よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○本多教育長 ありがとうございます。

以上で報告事項を終了いたします。

## 7 その他

### （1）令和4年度上伊那郡社会教育関係者懇談会について

○本多教育長 7番のその他のほうに移ります。

令和4年度上伊那郡社会教育関係者懇談会について、お願いします。

○竹田教育総務係 8ページを御覧ください。

11月11日金曜日ですが、伊那市のほうで行われる社会教育関係者の懇談会です。

公民館等の事例発表があります。

ちょっと9ページの一番下のところを見てください。「新型コロナウイルス感染症対策にかかわって」ということで「感染が拡大した場合、拡大が予想される場合は、オンライン開催に変更させていただきます。」ということです。この間もそうだったわけですが、また連絡が来たらすぐに対応したいと思います。同じようなことが起こり得るかもしれません。

それから、一番後ろのところに健康チェックシートをつけておきました。11ページです。

これでいきますと1週間前からということになりますので、11月4日から記入しておいていただくということになるかと思えます。よろしくお願いします。

それから、当日の車のほうと時間のほうだけこの後確認させてください。

次長さん、車は一緒に行く感じですか。

○北澤教育次長 今年は公民館が当番で車を2台とってあるのですけれども……

○竹田教育総務係 では、それを聞いて私のほうでお伝えするようにしますね。

○北澤教育次長 1時半から開会行事なので、12時半には出ていったほうが良いような気もするのですけれども、いいですかね。12時半にしておいていただいて、保健センター前に集まっていたらいい形がよいのかなと思います。

また社会教育課長さんとも調整します。

○竹田教育総務係 以上です。

○本多教育長 久しぶりの社会教育関係者懇談会であります。

今年の当番は公民館になっているということです。

大変面倒くさいですけども、4日から検温のほうをよろしく願いいたします。

一生懸命検温して当日は忘れちゃう人が結構いるのだけれども、どうすればいいのか……。検温はずっとやったのだけれどもと……

○竹田教育総務係 よく読んでみると中に入れてくれないと書いてあります。(笑声)

これは2年前の基準で作ってあるような感じがします。

○本多教育長 よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○本多教育長 では、お世話になります、よろしく願いいたします。

以上で予定した案件は終了しましたけれども、全体を通して何かありますでしょうか。

○木下委員 1件よろしいですか。

本日のことではないのですが、先日の先生方の教育課程研究会、私は健康教育の東小学校担当でございまして、子どもたちの睡眠ですとか食事についての研究発表を聞かせていただてきました。

睡眠のほうはいいのですが、給食では、発表されたのは4年生の先生だったのですが、現状ではあまりにも米飯のときの残食が多いということで、朝登校した子どもたちの人数のマイナス5人分を頼んでも大量に残っていたというお話をいただきました。ですから、25人のクラスですと20食分で頼むのですが、それでもまだ余っているというような状況が春から続いていたそうです。

それに対してどういう取組をしたかという、栄養士の先生にも助言いただいて、養護教諭の先生を授業にお招きして子どもたちに勉強させると残食が減ったという流れだったわけです。

各学校の現状の残食の状況みたいなものは把握できるのでしょうか。

必要に応じて、これからは各クラスで、各学校で、やっぱりクラスの先生ではなくて養護教諭や栄養士の先生方を入れて体づくりの勉強みたいなことを来年から授業に組み入れていくような形を取るとか、そういうことを促していったほうがいいのではないかなと私は思って聞いておったのですが、残食の状況などは分かりますか。

○吉澤給食センター所長 給食センターのほうでは、戻ってきたときに学校ごとの大体の残食の量を量って記録をしています。

学校によって小学校、中学校によっても量というのは違ってきていますけれども、食べられる学校は食べているなというところもあります。

特に赤穂中学校はちょっと多めかなというような印象があります。

牛乳もまるっと全部残ってくる本数も結構あつたりするということもあるので、食育というようなところでも食べ物を大事にするとか、食品ロスのところを気を配っていただくとか、そういうところは行っていく必要があるかなということは感じております。

○木下委員 どうでしょうかね。やっぱり何か授業の中で専門の先生方のお話を子どもたちに伝えていくという機会を増やしていただければなあと思うわけです。

我々がPTAの頃は食育という単語が盛んに使われていたわけですが、PTAの懇談会だとか講演会というものができた時代ですので、そういう栄養士のような方をお招きして親同士

でも勉強し合ってやっていた覚えがあるのですけれども、できれば学校の中でそういう先生方のお話をさせていただいて子どもたちに意識づけができればなあと思います。何かそういう方向に進んでいただければと思います。

○本多教育長 南小で今やられている食育では栄養士さんがよくお話ししてくれるということで、喜んで話をしてくれるという話を聞いていますので、お願いすればできますよね。

○吉澤給食センター所長 もちろんです。栄養士の先生はいつでも行ってもらえると思うので、学校のほうでも関心を持ってお声がけをいただくととてもありがたいなということは思います。

学校のほうで何キロというのは量っていないかもしれないので、センターで量っているだけなので……

○本多教育長 時々知らせていただくとカンフル剤にもなるから、教えてもらうといいかもしれません。

今のマイナス5人分という話は、給食費を払っているのにとりますが、あれはももとのとおりでやっていて、大体このくらい的人数でこのくらいとやるのだけれども、申告があればあらかじめ少し減らすことはいいよね。わざわざ残量を増やすよりも、傾向を調べてちょっと減らしてもらって、それでもきちんと同じようにやっておかないと駄目なのですかね。

○吉澤給食センター所長 子どもの体格差もあるので一概には言えないのですけれども、一応基準があって、このくらいの年齢の子には栄養価的にこれくらい食べてほしいというのを基にして栄養士の先生方は組んでくれているので、もちろん、できればその量を食べてもらえれば体をしっかりつくっていくというところにつながっていくなとは思っています。

ただ、どうしても食の細かい子もいますし、クラスによって偏りもあったりするので、新しい学期が始まったところとかでは食べる量が少なかったりするという相談をいただくと、その分はちょっと減らしめにはしているのですけれども、秋以降は徐々に本来食べてほしいところに持っていきたいというのが栄養士の先生方の考え方です。できるだけ必要な量をいろんなときにも食べてほしいなというところで提供している感じです。

○本多教育長 あわせて、いじめるわけじゃないけれども、最近は牛乳が余るということで、これからますます牛乳は余るようになるよね。冬場なんかは、もうクラスによっては30本近く余ってくる場所があるじゃないですかね。それも今の御飯と同じで残ると、牛乳は昔から言われている。

○吉澤給食センター所長 もうそのまま返ってきて、そのままお戻りするということです。

○本多教育長 昔は、牛乳がいっぱいあるから余ったらうちへ持って帰って大変助かりますなんて全国放送して、がんがん怒られた先生がいました。ありがたい気持ちは黙っておいていただいて、給食のおかげでひもじい思いをしなくて済みますなんて言って公共の電波でやってしまいました。こういう人もたまにいるので、もう忘れられる頃だから、そろそろまた警告しておかないとね。

だけど、毎日毎日、捨てるわけだね。

○吉澤給食センター所長 そうですね。

○北澤教育次長 差し支えなければ、また定例教委とか校長会に状況確認で資料を出してもらって。そこを責めるわけじゃないので、状況だけ分かるように、また準備ができたならお願いします。

○吉澤給食センター所長 はい。

○木下委員 お願いします。

○唐澤委員 給食の量は、全体の量はあるけれども、やっぱり個人差というか、食べられないのもあるし食べたくないのもあるし、いろいろあるから、そういうところも聞いておかないと分からないですよ。

○北澤教育次長 理由を教えてください。

○木下委員 汁物は取り合いなのですと、足りないくらい取り合いをしますということでした。

○吉澤給食センター所長 好き嫌いといったらあれですけども、好きなものは食べるけれども野菜は残すみたいなの、そういう傾向がどうしても見えることは見えます。

○本多教育長 空揚げはけんかしてとか聞いたけれども。

○吉澤給食センター所長 コロナの関係で給食をしゃべりながら食べられない、黙食になったというのをお聞きするのですけれども、やっぱり楽しみながら食べるということによって食が進む進まないというものがあるような気もしまして、この数年で減ってきたとするとそういうこともあったりするのかなと思ったりするのですよね。

ですので、現状だとそういったことはどうしようもないので、しゃべれないのはしゃべれないのですけれども、そうすると本当に個人の気持ちに訴えかける食育をするしかないなという難しさがあるのではないかなと思います。また年度によって食育のやっていき方が違うのではないかなと感じるところです。

○唐澤委員 昔から給食には牛乳と決まっているのですけれども、ほかでも栄養が取れるので、あんまり残るようなら違うことを考えてお茶にしてもいいような気もします。

学校に行って給食を食べるのに牛乳を飲むということに、私なんかは大人になって自分で考えると何か違和感があるのですよね。

○本多教育長 カルシウムを取るのには一番手っ取り早いのだよね。

○吉澤給食センター所長 そうですね。どうしてもカルシウムを取りたいというところで……。

○木下委員 親や家庭は、我が子は食べていると思っているのですよね。でも、先生方の研究のお話を聞くと割と我が子の給食を食べている状況は把握していないというのがあります。

ですから、先生方もプリントを作って家庭にも語りかけてくださいという話をしてきたのですけれども、もしかしたら給食委員会みたいなのところでも議題にさせていただいて、各学校へ持ち帰っていただいて、各学校、学校だけではなくて保護者の中で何か対策を取ってもらうようなことも必要かもしれないですね。

○本多教育長 これは俺の感想ですけども、手作りならいいんですが。家庭でチンする、あるいは冷凍食品とかが多いのだけれども、おいしいというのは味が濃いのだよね。俺はちょっと制限をかけられたりするのでも味の無いようなのを食べると、今はもう慣れてきちゃったけれども、おいしいと感じないよ。久しぶりに「これはうまいな」と言ったら「ちょっと塩分を増やしてある」なんて言われちゃったりするのだけれども、その違いがあつたりして食べないということじゃないかなと思うのです。

時期の大事なものというのは、ちゃんと管理栄養士がついているので、そこは信じて食べるのが大事だぞということを家庭でも——家庭の場合には忙しかったり手抜きだったり、いろいろあるかもしれないけれども、家庭の少ない人数よりも、たくさん食べればたとえ黙食でも食べる

という、そんないろいろな要素が混ざっているから全部一つ一つはそのとおりにできないかもしれないけれども、何とか栄養士さんが願う基本のメニューには近づきたいよね。

提案いただいてありがとうございます。

本当に大事な毎日のことだからね。それじゃあこれから帰ったら飯を食わないかといっても、やっぱり食べるものね。食は欠かせないことなのでね。

では、今出たついでにお話しします。

私のほうは赤穂中学のところで技術家庭科のICTのプログラミングの学習をしていました。子どもたちは、自分でオリジナルのLEDライトをつけようというような授業をしていました。

今風な子だなというか、そういう機材も整ったような時代に生まれた子どもだったので、我々よりもはるかに上を行っていて、どんなような信号を送ると、そのパルスによってどんなふうに変わっていったかとか、いろいろな変化のものを自分でやったり、どういうふうに盛り込むかと考えたりしながらやっていたのです。

私が座席表を見たら、やっぱりお父さんが帰ってくると暗い中を戻ってくるので足元を明るく照らしたいとか、私が本を読むときにちょっと暗くなるので近くの全体を照らすようなものを作りたいということで、目的意識がはっきりしているというのは、やっぱり思いも全然違うのですね。プログラミングをうんとオリジナルでやっていて素晴らしいなと思いました。

本当に活発で、先生自身、伊那養護からおいでになった先生で、一人一人の悩みのとか、そういうのを全部把握しているような状況で、久しぶりに生き生きとした授業でよかったなというふうに思いました。

代理さんはどうでしたか。

○福澤教育長職務代理者 私のところは国語の参観でしたけれども、研究授業で先生は勉強に来るわけですが、どうも一番勉強して力がついたのは東中の先生だったようです。

生徒たちはいませんでしたので、前もって撮影して、それを構成して発表する順番に組み替えるということで、非常に段取りよくやっておりました。

生徒たちがおらない研究授業はどうなのかなという気がしないでもないですけども、たまにはいいかなという感じがしましたし、ICTの関係では進んでいるなあという感じで、力が入っているなあという感じはしました。

子どもたちのビデオの様子は、やはり、今、教育長先生が言ったように、もうすべて自分で体験するという感じと、そういうことで一人一人がみんなで作るという感じが大部分についているなあという感じがしました。

それと、あと気がついたのは、ある一定の時間内にみんなで話しをしながら解答を導き出して、それでそれぞれが打ち直すという感じでしたけれども、みんなで集まって三、四人で話をするときには、子どもたちのしゃべり方ですので普通の会話じゃないのですね。やっぱり友達同士ですのできちんとしたしゃべり方じゃない。ところが、それを打つと、文章に変えるときちんとした文章になっていくということで、これはまた、ああこういうことかなあと思いました。では、公式な場でもって一人で話せといえちゃんとした文章で話ができるのかなあと、そういう感じがしました。

今まで私が中学校の卒業式だとか入学式に行ったときには代表者の挨拶があるわけですけど

も、子どもたちの挨拶、生徒の挨拶を聞くたびに、これはさすがに中学生でもこんなふうにしやべれるのかなあというような文章でしゃべっているわけですので、思ったよりも力があるのだからなあという感じはしました。

だから、大人と話をするとききちんと話ができればいいなあという気がします。

以上です。

○本多教育長 ありがとうございます。

何か質問はありますか。

教育委員会も公開授業に参加するのは悪いことではないので、そういうときの授業を見るのもいいかもしれないですね。

○福澤教育長職務代理者 あとは、校長先生と懇談したのですけれども、先ほど竹田先生とも話をしましたが、東中の校長先生は、前は県職で県の教育委員会におられて、一番苦しいところを切り抜けてきて東中に異動になってきたわけですが、特に今年の3月はえらかったということでした。

今までは県の教育委員会側で、今は末端の校長先生で、文章を出す側ともらう側が逆になったわけですが、今までやってきたことの反省をしきりに述べておりました。

やはりこっちから言うべきことはきちっと言う、そういうことも大事だと思います。

特に東中の校長先生は上におった人ですので、教育課だったということもありますけれども、上から来た文章をうのみにして何でもかんでも下へ伝達するというようなやり方じゃなくて、やっぱりどこかで止めて、戻して、またやり直すとかということが続けていかないと気づかない部分があるのではないかという気がしました。

以上です。

○本多教育長 何でも県が言うことだから国が言うことだからといってはとんでもないことになる、3年ばかりしたら国は何も言わなかったという、そんなような政策は幾らでもありますので、「金の切れ目が縁の切れ目」じゃないですけども、そんな政策も幾らでもあるので、踊らされないで、やっぱり自分を持って軸を持って臨むということですね。いい話を最後に聞かせていただきました。基本的な大事な姿勢だと思います。

ほかにはよろしいでしょうか。――いいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

## 8 閉会

○本多教育長 では、以上で第11回駒ヶ根市教育委員会定例会を終了いたします。

お疲れさまでございました。

午後2時53分 閉会

---

駒ヶ根市教育委員会会議規則第25条の規定によりここに署名する。

令和 年 月 日

駒ヶ根市教育委員会

教 育 長

\_\_\_\_\_

教育長職務代理者

\_\_\_\_\_

委 員

\_\_\_\_\_

委 員

\_\_\_\_\_

委 員

\_\_\_\_\_